

東北関東大震災：復興の骨太の方針

学校法人東北学院は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北関東大震災により建物、構築物等が大きく破損し、また、学生教職員及びその家族の生命・財産も多数失われるなどの被害を受けるに至った。こうした厳しい状況の中、本学院の復興を速やかに行うために、この「復興の骨太の方針」を決定する。

I 施設

1. 平成 23 年度予算の「施設関係支出」については、原則として、予算執行を凍結する。
2. 東北関東大震災により損壊した建物、構築物等の復旧に最大限の努力をする。
3. 建物、構築物等の復旧は、優先順位の高い順（授業運営、本部機能、学生支援、キリスト教、研究、一般事務、課外活動に関する施設の順）に実施することを、原則とする。

II 学生支援

1. 東北関東大震災によって罹災した学生の経済的支援（学納金減免）を積極的に行う。
2. これを実行可能にするために、従来の緊急奨学金の支給基準・支給対象者等の見直しを行う。

III 人件費

1. 人件費の削減と教職員のモチベーションの維持との間の調和を図る。
2. 人事院勧告の水準は、可能な限り維持する。

IV 教育研究経費・管理経費

1. 上記 I、II による巨額の支出増に対応するために、予算単位ごとに、平成 23 年度予算示達額の 10%（2000 万円以上の予算単位においては 20%）の執行を凍結する。
2. 学校法人全体としては、委託費等の見直し、光熱水費等の徹底した削減により、教育研究経費・管理経費の 20%削減（平成 23 年度予算示達額比）を目指す。

V （仮称）五橋キャンパス構想

1. 東北大学片平キャンパス南地区の土地取得については、予定通り取得する。
2. このキャンパスには、土樋キャンパスの損壊した建物の代替施設を建設する。